

2018年度公共経営アクションリサーチのテーマ 「デザイン思考で再構築するパブリック・リレーション」への取組について

今年度は公共経営アクションリサーチ初の試みとして、まずデザイン思考*のワークショップを1泊2日で行い、パブリック・リレーションに関する隠されたニーズ、問題の所在を明らかにし、情報の流れや場、メディアのデザインに関するアイデア創出を行いました。ワークショップで得られた問題意識や仮説は、現場の実態調査や文献調査等で裏付け、さらなる深耕をはかりました。

(*デザイン思考:新しい製品やサービス、しくみを創出するプロセスと考え方。ユーザーへの共感から問題定義を行い、アイデアを発想し、簡易な試作でテストを繰り返す。)

プログラム 詳細

18:30 開場

19:00 開会

司会: 首都大学東京ビジネススクール 教授 竹田 陽子

19:00 ~ 19:10 主催者挨拶

首都大学東京ビジネススクール プログラムディレクター 教授 長瀬 勝彦

19:10~ 19:40 基調講演

「交流型民泊による地方創生における官民協働」
株式会社パソナ ソーシャルイノベーション部
エグゼクティブプロデューサー 小柳 秀吉

19:40~ 20:10 講演

「デザイン思考と学術研究の融合の可能性」
首都大学東京ビジネススクール 教授 竹田 陽子

20:10 ~ 21:00 首都大学東京ビジネススクール学生による成果報告(4グループ)

進行: 首都大学東京ビジネススクール 准教授 西村 孝史

21:00 閉会

首都大学東京ビジネススクールについて

首都大学東京ビジネススクール(大学院経営学研究科経営学専攻)は、2003年の設置(当時は東京都立大学)以来、充実した教授陣とプログラムで徹底した少人数教育を行い、多くのビジネスリーダーや起業家を養成してきました。経営学プログラム(MBA)、経済学プログラム(MEc)、ファイナンスプログラム(MF)の3プログラム体制で、丸の内サテライトキャンパス(丸の内永楽ビルディング18階)において、社会人が通学しやすい平日の夜間と土曜日を中心に授業を行っています。

詳しい情報は大学のウェブサイト(<https://www.biz.tmu.ac.jp/gs/>)をご覧ください。

公共経営アクションリサーチについて

首都大学東京大学院経営学専攻の「公共経営の人材育成プログラム」は、2007年度の文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」に採択され、3年間の財政支援を受けました。現在は「東京都と連携した高度専門人材の育成」のため、大学独自の事業として公共経営アクションリサーチが継続されています。企業経営の知見を公共セクターのマネジメントに応用するプログラムであり、ビジネススクールの履修者がグループごとにフィールドワークを中心とした調査研究を行います。これまでに取り上げたテーマは「超少子高齢化社会における組織間コラボレーション」「防災と復興のマネジメント」、「オリンピック・パラリンピックとスポーツマネジメント」など多岐に渡ります。